

し ん じ ゅ 新 樹

「新樹」＝水と緑のまちをイメージし、男女平等の葉が青々と茂るようにという願いを込めました。

前橋市男女共同参画情報誌

27号

回 覧

2012年3月

前橋市のホームページからでもご覧になれます

前橋市 新樹

検索

◆特集◆

地域で取り組む男女共同参画

…P.2～5



城東町四丁目編



高花台一丁目編

●今年度開催した講座紹介！ …P.3～4

おじやま インタビュー

…P.6

～チンドンは
最高の芸術だ～

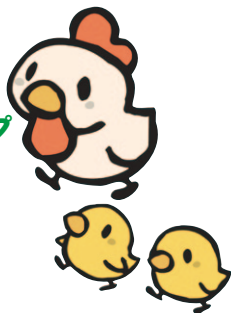
うまやばし ち ん ど ん く ら ぶ
厩橋 CHINDON 倶楽部



パパ知ってる？

パパも安心
多目的トイレ in 公園マップ

…P.7



- 海外レポート～メキシコ合衆国編～
- 男女共同参画室だより
- 編集後記

…P.8

地域で取り組む男女共同参画

今、元気なまちがあります。そこに暮らす人達がいきいきと輝いているのです。かつて、にぎわっていたまちから子どもたちが減り、さびしい時期もありました。しかし、人々は、男性も女性も年配者も若者もみんなで協力して、自分たちのまちを守ろうと立ち上がりました。

今回の特集では性別や年齢にこだわらず住民みんなが協力してまちづくりに取り組み、活性化してきている自治会「高花台一丁目」と「城東町四丁目」にお話を伺いました。

皆で楽しみ支え合うまちを目指して

～新興住宅地のいま～

高花台一丁目編

前橋市の北部にある高花台団地は、赤城南ろくの丘陵地にあり、35年ほど前、農村地帯の芳賀地区の一角を開発した新興住宅地。街路樹の茂る大通りに沿って、生垣に囲まれた閑静な住宅街です。今回、ユニークなまちづくりを目指している一丁目の方々にお話を伺いました。

ゼロから始まったまちづくり

当時は核家族による持ち家指向が加速していた時代で、この土地を気に入って、あちこちから若いサラリーマン世帯が集まりました。自立心が旺盛で、良い意味での個人主義にあふれていた人々の中での自治会活動はご苦労もあったと思います。「ゼロからの出発でした。子育て世代が多かったので、活動は子ども中心でしたね。」と初代自治会長の山田光彦さん。当時一緒に役員をしていた石坂要さんは「芳賀地区の地元の方々からはいろいろ教えてもらいました。現在小学生は35人ですが、当時は200人近くいて、市民運動会で優勝するなど活気に満ちていましたね。」

高齢化を支える『まちづくり委員会』誕生

子ども達が自立し、夫婦や単身世帯が増えていく中で、平成15年に住民の身近な買い物ポイントだったAコープが撤退。この時、十数年後の団地の高齢化に危機感をもった住民たちの中から生まれたのが、『まちづくり委員会』。食料・生活雑貨・福祉の複合施設開設運動を中心に「福祉部会」、「環境部会」、「安全部会」、「元氣部会」を立ち上げ、高花台一丁目自治会の後方支援として活躍しています。

「福祉部会」では今年、敬老会への声かけを実施し効果があつたことから、「これからも、一人暮らしの方々への声かけをして行きたいと思います。」と川口ユキエさんは意気込んでいます。

『マスのつかみ取り大会』大成功!!

団地を流れる藤沢川が昨年の夏、改修工事で川幅が広がり、子どもたちが遊べる川に生まれ変わりました。「元氣部会」は「育成会」、「福寿会」に働きかけ、『マスのつかみ取り大会』を企画。普段は母親達が活躍している「育成会」ですが、ここは出番とばかりに、父親たちが川の監視やバーベキューで力を発揮しました。子ども達は川の中で大はしゃぎ。『マスのつかみ取り大会』は大成功でした!

サツマイモと枝豆の植え付けに初挑戦!

隣の勝沢町の農家の方々の好意で土地を借り、機械や作付けなどいろいろな面での協力のもと、子どもたちとサツマイモと枝豆の植え付けに初挑戦し、収穫にこぎつけました。「サツマイモはもう一歩でしたが、枝豆は絶品でしたよ。」と自治会長の橋本寛文さん。来年度は、芳賀地区10町が協力して休耕田で農作物を作り、11月11日に合同の収穫祭を行うことが決定。高齢者や一人暮らしの方々に収穫した野菜を「福祉部会」の人達と子どもたちが一緒に配ることで、相乗効果を考えています。



▲きれいになった藤沢川で夢中になってマスのつかみ取り!



真剣です！
どら焼き作り

大活躍の『男の料理クラブ』

妻が病気になり、食事の用意で困ったため、男性対象の料理教室を開いたのがきっかけで、『男の料理クラブ』が誕生しました。今では会員も21人、敬老会の手作り料理やトン汁づくりと一緒に担当する食生活改善推進員の山田諭子さんも太鼓判を押す腕前です。文化祭でのおはぎとどら焼きは手作りのあんこが美味しいと即完売でした。「月1回の定例会ごとのレシピ入りの会報発行や、年5回の飲み会などで、男性同士と気さく楽しんでいきますよ。メンバーは自宅でも料理をするようになり、意識も変わってきましたね。」と代表の藤井猛さん。

皆で楽しみ支えあう まちを目指して

「高花台一丁目の男女共同参画は説明的な言い方ですが、男性を自治会や育成会に引っ張り出すことで実現すると思います。男性は今まで地域に根ざして来なかったんですね。会社だけでなく、家庭や地域での役割を持つと、意識も生活も大きく変わるはずです。」

まず男性のための楽しいネットワーク作りの手始めに、飲み会でも企画しようと思っています。今迄夫の代わりに妻が自治会活動を担ってきましたからね。男性が加わることで、まちも人も大きく変わると思いますよ。

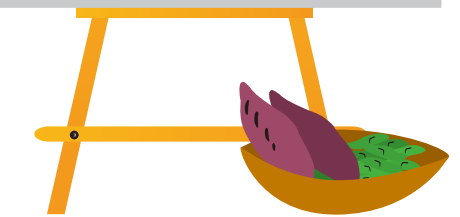
自分で出来ることは自分で、出来ないことはみんなで、それでも難しいことは行政へ頼む。自立と共同と協力の使い分けが大事だと思います。これからもいろいろな仕掛けをして多くの住民に参加を呼びかけ、意見を出し合うことで、皆で楽しみ支えあう高花台一丁目を目指していきたいと思っています。」と橋本会長や『まちづくり委員会』の皆さんは、まちの先を見据えた楽しい企画を考えています。



(上段) 青木里美さん 三森文子さん 山田諭子さん 川口ユキエさん
(下段) 石坂要さん 橋本寛文さん 山田光彦さん 岸和田晃さん

◆情報誌『新樹』 特別回覧実験中！

本誌は回覧板と一緒に回しているためなかなか読んでいただけません。じっくり読んでいただくために、現在高花台一丁目で実験的に『新樹』のみの回覧(三日間お手元、それからおとなりへ)を行っています。



【取材感想】

高花台一丁目の皆さんからたくさんのエピソードを伺いましたが、紙面の都合で載せられないのが残念です。最近広報委員になった岸和田晃さんは広報誌の名前「花一だより」をさりげなく「ら・はないち」に変更して住民の意識改革を図っています。また平成24年の新春の集いの準備を通じ、音楽好きの四組5班の4人組が「四組・ごはんですよ・カルテット」なるコンボバンドを結成。地域デビューも果たしたそうです。高花台一丁目は人材の宝庫。この人的資源がユニークな活動を通してまちを活性化していくのではないかと思います。

(取材記事：高坂・池田)

【高花台一丁目データ】

(1月末日現在)

住民数	771名
構成	男 378人
	女 393人
65歳以上	253人(全住民32%)
75歳以上	79人(全住民10%)

23年度開催した講座



DV・デートDV基礎講座

- ▶ 第一回「大切な家族や友達をDVから守るために」
講師 吉祥真佐緒さん／全国女性相談研究会事務局長
- ▶ 第二回「DVをめぐる精神医学の基礎講座」
講師 丹野ひろみさん／精神科医・臨床心理士
- ▶ 第三回「デートDV」
講師 福多唯さん／WEN-DOインストラクター
- ▶ 第四回「DV被害者を支えるために」
講師 小池順子さん／臨床心理士

【開催日】 第一回 23年8月6日／第二回 23年8月21日
第三回 23年9月3日／第四回 23年9月17日

女性のための護身術 (WEN-DO)

カナダで考案された女性が女性のために伝える護身術(WEN-DO)を開催しました。インストラクター 福多唯さん

【開催日】

23年9月2日
24年2月18日
24年度も開催予定



安心して明るく元気に住み続けられるまちに

～少子高齢化社会の中の男女共同参画のまちづくり～

しょうとう まち
城東町四丁目編

市の中心街に接している城東町四丁目は、昔は一毛町（いっけまち）と呼ばれ、戦後のベビーブームからバブル期の頃までは住民も多く、まちもにぎわっていました。近年は、他のまちと同様にドーナツ化現象で少子高齢化地域となっています。特に75歳以上の住民が全住民の2割を超え、高齢者のひとり暮らし世帯や夫婦のみの世帯も増えています。このような現状の中で、どのようにまちづくりに取組んでいるかをお伺いしました。



和やかふれあい会食会



名人芸である
山菜の天ぷら

く役員さんたちの表情から、行事の楽しそうな様子が伝わってきました。

楽しい催しがいっぱい!!

役員は名人芸の持主？!

町の人たちの活動の場でもある城東町四丁目会館は、予定表がいつも埋まっており、活発に活動している様子がわかります。年間を通して自治会をはじめ、婦人会や老人会、青年会、子供会育成会及び各種団体が共同で様々な行事を行っています。

なかでも毎年5月に開催している「ふれあい会食会」は、もともとは、自治会副会長の加賀谷宏さんが少人数で山菜天ぷらを味わっていたものが、黨明良自治会長の発案で、75歳以上の一人暮らしのお年寄りを招待するようになり、始まったものです。山菜取り名人の加賀谷さんたちが山菜を取ってきて、組長の佐藤恭一さんはじめ料理上手が天ぷらを揚げるという連携で、昨年の会食会では、130人前、約400

個の山菜てんぷらを作りました。佐藤さんの手際の良い見事な料理の腕前で、三菜(山菜)が、四菜にも五菜にもなります。うどんを茹でるのも男性たち。婦人会や母の会の女性たちは、漬物と煮物を担当。「山菜を取るのが得意とか、料理がうまいとか、焼きそばを焼くのが上手とか、なんか特技がないと役員になれないんだよ(笑)」と佐藤さん。その言葉に笑いながろうなず



いなかのハッピー
勢揃い

男女共同参画基礎講座（自分をマネジメント講座）

健全な心を保つことは男女共同参画社会の実現にも繋がるため、心の健康に関する講座を開催しました。

- ▶ 第一回「心理学的ワーク・ライフ・バランス」
講師 手島茂樹さん/東京福祉大学心理学部長
- ▶ 第二回「職場のストレスマネジメントとリラクゼーション」
講師 加藤昌弘さん/グループインサイト心理教育研究所所長
- ▶ 第三回「思考のクセを科学しよう：脳と男女差」
講師 甲村美帆さん/群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部准教授
- ▶ 第四回「無限大の可能性『心の力』をマネジメント」
講師 湯澤建一さん/メンタルヘルス総合研究所所長

【開催日】第一回 23年11月13日/第二回 23年11月20日/第三回 23年12月3日/第四回 23年12月10日



新入学児童のお祝いもしています。昔、子供会育成会を結成した頃は子どもの数が多く、バス4台で赤城山などに旅行していましたが、23年度の新入学児は4名。しかし、ここ数年間一人もない状態が続いたため、皆声をそろえて「嬉しい。」と言います。

他にも、納涼祭や75歳以上の方を招いて行う敬老祝賀会など、いろいろな行事を行っています。

最近、各行事とも男性も女性も協力して行っています。子供会育成会の役員なども男性が増えています。また、夫婦での参加も増えています。



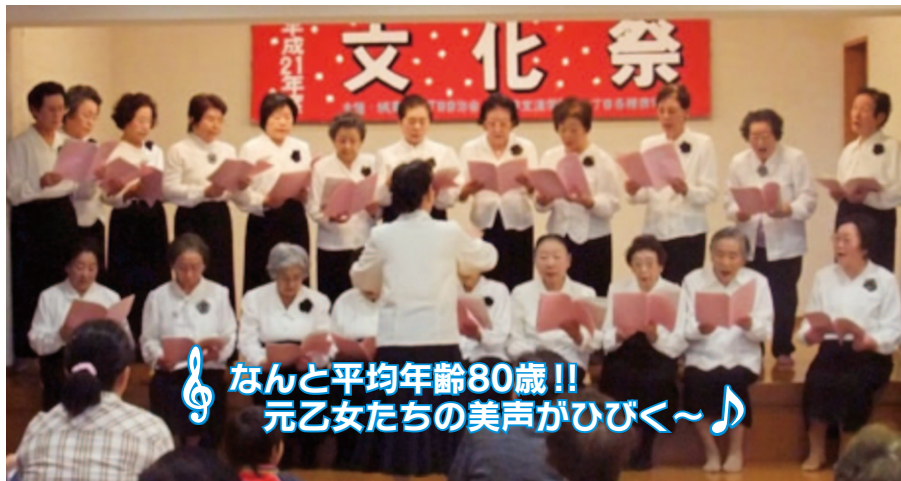
▲納涼祭で活躍、焼きそばを作る青年会

平均年齢80歳の合唱団

滝澤はな子さん、富安一子さんは町内が誇る「童謡を歌う会」に参加しています。会員は、現在24名、なんと平均年齢80歳です。毎月第一・三の月曜日に練習をしています。文化祭では、おそろいの衣装を着て、素晴らしい二部合唱を披露します。ステージで歌う姿は、とてもお歳には見えない若々しさと評判です。

「敬老祝賀会でも歌いますが、会員が招待者でもあるため、お客様と主催者両方かけもちで大変です。練習では、メンバーの歌声が合わなくて心配していますが、不思議と本番では、見事に合うんですよ。」と富安さん。

定年退職後、15年間参加している滝澤さんは、「何より皆さんと会うのが楽しいです。家に閉じこもらず、大きな声で歌って、お茶を飲みながら、おしゃべりできる場所があることが有難いです。」と言います。「普段着で歩いて行けるそんな場所が地域にあることが大事です。」と富安さん。他の町に引っ越されても、「皆さんと童謡を歌いたい。」と家族に送迎してもらい練習を続けている会員もいます。



なんと平均年齢80歳!!
元乙女たちの美声がひびく~♪

隣近所がくっつきあって

富安さんは、この町に住み始めたときに、狭い路地を挟んで向こう三軒両隣りがくっつきあっているという印象を受けたことを覚えています。「今も隣近所の方が気にかけてくれるのが有難いです。どうしているか、とお互いが気にする近隣関係が大事です。」

加賀谷さんは、「上電横丁という飲み屋街のカラオケで歌っていると、家にまで聞こえると家族に言われるくらい隣近所が近い。」と笑います。

「10年前に引っ越してきましたが、町の人たちはスムーズに受け入れてくれました。昔から住んでいた人達との交流に違和感はないですね。」と佐藤さんは言います。

さらに「昔は、金や力があれば、老後は困らなかつたが、今は生活の中でそれでは足りないことを地域が助けてくれる。だからつまらない老後を送りたくなければ、『地域デビューしなさい』と私は言いたいです。」

最後に、加賀谷さんは「自治会活動はひとりで考えることではないので、自然に毎日の暮らしの一部として、皆で行動すればいいと思っています。高齢者世帯が増えている中で、何かあつ

たら、地域が助けてくれるという安心感のある町にしたいです。」と語ってくれました。



【取材感想】

旧市街地の住宅地は、かつてはさまざまな職業の方が住み、大勢の家族・住民で賑やかでした。時代の移り変わりで、住民の構成も高齢者が多く占めるようになってきました。しかし老若男女みんなで町内活動をしていく気風は現在も引き継がれているように思います。子供会育成会への若い人の参加が増えている話もあって、これからが楽しみです。

「人を心配する心のゆとり」「人から支えられている安心感」が地域に徐々に浸透していると感じました。

お互いが助け合い、安心して「自宅が終の棲家」となれるようにと、住民相互が協力しているまちづくりを取材させていただきました。

(取材記事：鈴木・池田)



(左から) 佐藤恭一さん 加賀谷宏さん 富安一子さん 滝澤はな子さん

【城東町四丁目データ】

(1月末日現在)

住民数	911名
構成 男	405人
女	506人
65歳以上	358人(全住民39%)
75歳以上	193人(全住民21%)

おじやまインタビュー Group



厩橋CHINDON倶楽部

うまやばし ち ん ど ん く ら ぶ

Tel : 027-232-3231 (事務局 北原)

HP : <http://babakawa.net/chindon/>

チンチン ドンドン

なつかしい音が街の中に流れています。派手な衣装・にぎやかな演奏・諸芸・愉快な口上…そうです「チンドン」です。チンドンはいまや老若男女幅広い世代に人気。高校生・大学生のクラブも結成されています。

今回のおじやまインタビューはユニークなミュージシャングループ「厩橋CHINDON倶楽部」理事長北原雄一郎さん、親方の井田健司さんをはじめメンバーの皆さんにお話しをお聞きしました。

厩橋CHINDON倶楽部が出来るまで

10年前の2002年、商店街の活性化をめざし「チンドン大学」を開校。11月16日の卒業記念公演として、馬場川通りで初のお披露目行進を行い、翌17日チンドン大学卒業生で「厩橋CHINDON倶楽部」を結成しました。

部員は19才から82才まで現在21名います。現役の大学生から踊りの師匠、元自衛隊音楽隊など職業や出身は様々です。ちなみに82才のお蔦姐さんは三味線のお師匠さん。なんと横浜市保土ヶ谷区から通っています。「厩橋CHINDON倶楽部」をテレビで知ったその日にメンバーに入りたいと電話で猛アピール。さすがに場所が遠いからと北原さんは横浜にある別のチンドン倶楽部を紹介しようとしたが「この倶楽部がいい!」と言ってメンバーに加入し、現在も元気に練習に通っています。

たかがチンドン屋 されどチンドン屋

「移動音楽隊なのでどこでも行きますよ」と北原さん。毎月第三日曜日にはるなばあくへ行き、子供たちとその場で子供チンドン隊を結成します。最近では、「僕はこの太鼓」と言って楽しみに待っている子もいます。病院では、発表舞台であるホールには来られない患者さんのために病室まで行き演奏します。寝たきりの患者さんが手を

振って喜んでくれるのですが、病室を出ると廊下に「静かにしましょう」の張り紙が…。

また慰問した高齢者施設では、認知症の方々の中にも反応する方や、涙を流す方もいます。症状の悪い女性が「美しき天然」という曲を聴き歌い出した時、施設長は鳥肌がたつほど驚いたと言います。「美しき天然」は日本最古のワルツの曲。女学生時代に歌ったことを思い出し口ずさんだのではないかと。チンドンには脳を活性化する効果があるということを実感したそうです。北原さんは言います。「私は『昔の記憶を引っ張り出す力』がチンドンにはあると思います。一瞬一時でもいいですから、懐かしい思いや夢を見させてあげることができたのなら、たかがチンドン屋、されどチンドン屋、素晴らしいなと思います。」



商店街に賑やか



▲老若男女問わず大人気

とにかく楽しい!

前橋中心商店街の“活性化”を目的に始めたCHINDON倶楽部ですが、「チンドン」をやっている自分達は確実に活性化されている、と北原さんは言います。

「チンドンを続ける原動力はお客さんの笑顔や元気になる姿が見られることですか。」とお聞きしたところ「いやいや、一番大きいのは楽しいことです。自分たちが楽しくてしょうがないんです。」と北原さん。お金もかかり、重い楽器を持つての演奏は大変。しかしそれを帳消しにする楽しさがチンドンにはあると語ります。

メンバーの皆さんも「とにかく楽しい」「今や生きがい」「老若男女幅広い世代で誰もが楽しめる」と輝く笑顔で話します。第8回川越ちんどんフェスタ(11月19日)出場に向けての練習の最中に取材をさせていただいたのですが、演目・振り・衣装、なんにもかも「楽しんでいる」そんなアットホームなグループでした。

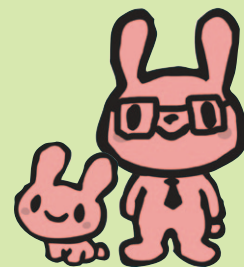
(取材記事：鈴木)



▲厩橋CHINDON倶楽部のメンバーの皆さん 笑顔が溢れます

パパ知ってる？

パパも安心 多目的トイレ in 公園マップ



子どものお出掛けで一番困ること。それはトイレではないでしょうか。
特にまだオムツをしている子ども連れだと、オムツを替える場所にも困るものです。

前橋には数多くの公園があります。中には『多目的トイレ』を備えた公園もあることを
ご存知でしょうか。

多目的トイレは、誰でも使える大きな個室のトイレです。室内にはオムツ替えシート
もあり、子どもを寝かせてオムツを替えることもできます。

外出先でのオムツ替えが不安でお出掛けをためらっていたパパも、この機会に『公園
デビュー』してみてもいいかもしれません。



敷島公園ばら園

前橋市敷島町 262



荻窪公園

前橋市荻窪町 530-1



毎月第3日曜日は
厩橋 CHINDON 倶楽部が
《にぎやかし》

るなぱあく

前橋市大手町 3-16-3



前橋公園

前橋市大手町 3-14-1



大室公園

前橋市西大室町 2545



『多目的トイレ』とは・・・

『ユニバーサルデザイン・トイレ』『多機能トイレ』などと呼ばれることもあります。車椅子でも入れる大きな個室に、ベッドや手すり、特殊な洗面台などが完備されています。障がいのある方だけでなく、妊婦・子連れ・高齢者、もちろんオムツ替えのパパなど、誰でも利用することができます。下のようなプレートが設置されています。



【多目的トイレのマナー】

- ・使用済みのオムツは持ち帰りましょう。
(ゴミ箱の設置のない場合)
- ・多くの方が使うトイレです。長時間の使用は避けましょう。
- ・使用したベッドやオマールは元の位置に。

(記事：中林)



海外レポート ～地球あちこち見て歩き～

船で地球一周した、編集委員の池田榮一さんのレポートを掲載します。

メキシコ合衆国編



メキシコには、19世紀末、榎本武揚が設立した「移民団」に始まる日本人移民の歴史があり、また現在は多くの日本企業が活動し、日本との関係が深い国です。

首都メキシコシティは周辺を入れると1000万人を超える大都会で、中心部はモダンな建造物・交通網が整備されて東京などと変わらない景観でしたが、その周辺地区には一見して低所得層とわかる居住区が広がり、国民の所得格差の大きさがわかりました。

この国で印象深かったものの一つは、グアダルーベ寺院の賑わいでした。友達、恋人、最も多いのが家族。みんな子連れで祖父母も一緒に訪れて、一心にマリア像に祈る姿を見て、信仰の深さを感じると共に宗教に救いを求める辛い現実があるとも思いました。同時にその雑踏の中で「家族」というものを考えていました。メキシコは母系的で、母親(祖母)の元に兄弟姉妹・子や孫まで月に数回は集まって食事や歓談をするそうです。こうした母(女性)の持つ強い求心力を見聞して、「原始、女性は太陽であった」という平塚らいてうの言葉を思いました。

さてこうした様子と比べると、近年の日本の家族関係は実に希薄になってしまったようです。もちろん、大家族制は、時に親の養老保障や家の労働力のために子供を産むなど、貧困や女性の人権に関わる問題を含んでいます。しかし、この家族総出の参拝を見ていると、神様以上に人間を救済するのは「家族のきずな」かも知れないと思いました。家族は人間の絆の原点です。この引力が希薄では、人の輪は広がりません。これは最近の日本での孤独化問題や3.11以降よく話題になる「きずな論」にも通じる事柄でしょう。



▲家族みんなで日曜礼拝(グアダルーベ寺院前にて)



総面積：196万km²(日本の約5倍)
人口：1億863万人(2010年調査)
首都：メキシコ・シティ
公用語：スペイン語 宗教：カトリック
GGI(ジェンダーギャップ指数) 130カ国中世界第97位(日本：第98位) 2008年度GGI：各国における男女格差を測る指数。日本においては政治分野、経済分野における男女差が大きいためメキシコよりも低い順位となっている。

男女共同参画室だより

今こそ、みんなでカエル！カンガエル！

カエル！ ジャパン
Change! JPN

自分にとって心地いい働き方が
周りのみんなにも心地よく響くといいね。
ひとりひとりが、仕事も、人生も、
めいっぱいいたのしめる
そんな会社や社会になるといいね。
たとえば「会議はみんなで1時間と決めてみる」とか
「朝、ToDoリストを作ってみる」とか
・・・働き方を変えることで
プライベートをたのしむ時間をつくり出す。
社長も、ベテランも、新人も、
サラリーマンも、ワーキングマザーも・・・
「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」
の実現に向けて、仕事のやり方を何かひとつ、
今日から変えてみませんか？

内閣府「カエル！ ジャパン」キャンペーンより

編集後記



◎3.11以降、地域力が注目されています。地域の様々な課題を解決するためのカギは、男女共同の力を生かせるか否かにあると思います。

《池田榮一》

◎引越して2年目、今春から班長として“地域デビュー”することになった。不安はいろいろあるが、先輩たちを見習って精一杯頑張りたい。

《角田のぶ子》

◎まちづくりに携わってきた方々の話を聞きました。ご苦労はもちろん、個性の豊かさに感心しました。前橋の大きさ、多様さを実感します。

《高坂 均》

◎取材の度に素敵な方々にお会いできます。「自分が楽しむ(参画する)」ことが他人を思いやり、地域を支える力ですね。「気が付けば共同参画社会」も間近かな？

《鈴木美知子》

◎昨年は、決して忘れることの出来ない年になりました。解決すべき問題はまだまだ山積みですが、小さな幸せを積み重ねつつ日々感謝して過ごしていきたいと思っています。

《中林真啓》

発行日：平成24年3月1日 編集：「新樹」編集委員

発行：前橋市 いきいき生活課 男女共同参画室 〒371-0023 前橋市本町一丁目5-2 職員研修会館1F

直通電話：027-898-6517 FAX：027-221-6200 メールアドレス：sankaku@city.maebashi.gunma.jp

<<新樹をご希望の方はご連絡ください。27号のご意見・ご感想もお待ちしております！>>